

飯塚舜(東京大学・日本学術振興会)

近年認識論の分野において、阻却事由(defeaters)に関する研究が盛んになされている。阻却事由とは、信念の正当化や保証、知識といった認知的な正の状態を失わせる、命題ないし心的状態である。阻却事由が注目を集める理由のひとつとして、阻却事由の存在を説明する能力の有無が、種々の正当化の理論を評価する試金石として利用できると目されていることがある(Moretti and Piazza 2018: 2849-2850)。この種の議論はしばしば、阻却事由の存在を説明できないことを根拠として、特定の理論を批判する形を取る。こうした批判に晒される理論の代表格が、ゴールドマンの著名な論文「正当化された信念とは何か?」(“What is Justified Belief?”)に始まる信頼性主義である(Goldman 1979)。正当化された信念とは単に信頼できるプロセスから生じた信念であるとする単純なバージョンの信頼性主義が阻却事由を説明できないことは、ゴールドマンがこの理論を世に問うた当初から指摘されていた(Bonjour 1980)。ゴールドマンはこの点を見越して、阻却事由が存在するケースを正当化が成立するケースから除外する一種の阻却事由不在条件(no-defeater condition)を、自らの理論に組み込んでいる(Goldman 1979: 20)。信頼性主義と阻却事由の関係という、信頼性主義が提唱された当初から認識されていながら長らく注目されてこなかった論点は、阻却事由そのものへの関心の高まりともあいまって、ここ10年ほどで大きな盛り上がりを見せている。その中で、ゴールドマンの阻却事由不在条件に対しては、近年でも様々な観点から批判的に検討が加えられている(Grundmann 2009; Baker-Hytech and Benton 2015; Beddor 2015)。本発表が扱うフマートンによる後退問題の指摘は、ゴールドマンの阻却事由不在条件への古典的な批判である(Fumerton 1988)。フマートンによれば、条件付き信頼性と無条件信頼性の区別に基づくゴールドマンの再帰的説明と阻却事由不在条件を組み合わせると、無限後退が生じる。この点は、適切な機能(proper function)や理由(reason)といった要素を加えた、ゴールドマンの信頼性主義とは異なる立場を取る一つのモチベーションとなっている(Bergmann 2006: 172-175; Beddor 2021)。

本発表の目的は、再帰的説明と阻却事由不在条件の関係を見直すことで、信頼性主義の立場から後退問題に応答することである。本発表ではまず、ゴールドマンの信頼性主義が正当化の再帰的説明となっており、また阻却事由不在条件を含んでいることを確認する。続いて、フマートンの指摘する後退問題を見る。ここでは、ゴールドマンが省略した理論の細部を解きほぐすことで、彼の説明が無限後退に陥っていることを明らかにする。最後に、再帰的説明のベース・ケースと再帰ケースのうち前者に阻却事由不在条件を追加するゴールドマンの見解を修正し、「さしあたり正当化された信念(prima facie justified belief)」を再帰的に定義した上で、さしあたりの正当化と阻却事由不在条件によって「最終的に正当化された信念(ultima facie justified belief)」を説明することを提案する。この修正案は明らかに「阻却された阻却事由(defeated-defeaters)」(Lyons 2009: 124)の問題に直面するが、詳細を加えることでこの点にも対応することができる。

## 参考文献

- Baker-Hytech, Max, and Matthew A. Benton. 2015. “Defeatism Defeated.” *Philosophical Perspectives* 29 (1): 40-66.
- Beddor, Bob. 2015. “Process Reliabilism’s Troubles with Defeat.” *Philosophical Quarterly* 65 (259): 145-59.
- . 2021. “Reasons for Reliabilism.” In *Reasons, Justification, and Defeat*, edited by Jessica Brown and Mona Simion, 146-76. Oxford: Oxford University Press.
- Bergmann, Michael. 2006. *Justification without Awareness: A Defense of Epistemic Externalism*. New York, NY: Oxford University Press.
- BonJour, Laurence. 1980. “Externalist Theories of Empirical Knowledge.” *Midwest Studies in Philosophy* 5 (1): 53-74.
- Fumerton, R. A. 1988. “Foundationalism, Conceptual Regress, and Reliabilism.” *Analysis* 48 (4): 178-84.
- Goldman, Alvin I. 1979. “What Is Justified Belief?” In *Justification and Knowledge*, edited by George S. Pappas, 1-23. Dordrecht: D. Reidel.
- Grundmann, Thomas. 2009. “Reliabilism and the Problem of Defeaters.” *Grazer Philosophische Studien* 79 (1): 64-76.
- Lyons, Jack C. 2009. *Perception and Basic Beliefs*. New York, NY: Oxford University Press.
- Moretti, Luca, and Tommaso Piazza. 2018. “Defeaters in Current Epistemology: Introduction to the Special Issue.” *Synthese* 195 (7): 2845-54.